

2012年度決算の概要

2013年4月25日(木)

コマツ

取締役(兼)専務執行役員 CFO

藤塚 主夫

1. 売上・利益

- ・連結売上高は前年比▲4.9%減収の1兆8,849億円。
- ・営業利益は前年比▲17.5%減益の2,116億円、売上高営業利益率は同▲1.7ポイント減の11.2%。

| | 2011年度実績 | 2012年度実績 | | 前年比 |
|-----------------------------------|----------------|--------------|----------------|----------------------------|
| | | []:1月公表 見直し | | |
| 連結売上高 | 19,817億円 | [19,200億円] | 18,849億円 | ▲4.9% |
| 営業利益 | 2,563億円 | [2,300億円] | 2,116億円 | ▲17.5% |
| 売上高営業利益率 | 12.9% | | 11.2% | ▲1.7ポイント |
| 純利益*1 | 1,670億円 | [1,380億円] | 1,263億円 | ▲24.4% |
| ROE | 17.3% | | 11.5% | ▲5.8ポイント |
| ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合) | 0.56 (0.28) | | 0.49 (0.20) | 0.07ポイント改善 (0.08ポイント改善) |

*1米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

2. 各セグメントの状況

■ 建設機械・車両

建設機械の需要は北米、日本では増加したが、中国の回復遅れ等により全体としては低調に推移。鉱山機械の需要は、石炭鉱山向け以外は減速傾向ながら比較的堅調に推移したものの、インドネシアの石炭鉱山向け需要が減少。これらの結果、前年比減収減益。

■ 産業機械他

大型プレス、工作機械の販売は堅調に推移したが、ワイヤーソーの需要低迷、仮設住宅用プレハブハウス需要の一巡等により、前年比減収減益。

3. 年間配当金: 48円/株 (当期純利益に対する配当性向:36.2%) (前期:42円/株)

中間配当金24円/株、期末配当金24円/株 *2、年間計48円/株 (*2 第144回定時株主総会に付議予定)

- 2012年度、コマツの連結売上高は前年比▲4.9%減収の1兆8,849億円、営業利益は前年比▲17.5%減益の2,116億円となりました。

[各セグメントの状況]

- 建設機械・車両: 北米、日本において建機需要が増加しましたが、中国建機需要の回復遅れや、インドネシアの石炭鉱山向け需要の減退等により、前年比減収減益になりました。
- 産業機械他: 大型プレス、工作機械は比較的堅調に推移しましたが、ワイヤーソーの需要低迷、仮設住宅用プレハブハウス需要の一巡等により、前年比減収減益になりました。

[配当金]

- 当期末の配当金は24円/株の予定です (本年6月19日開催予定の定時株主総会に提案の予定)。
- 中間配当金24円/株を含めた年間配当金は計48円/株となります。

・北米、日本の建設機械需要は堅調、石炭向け以外の鉱山機械需要も減速傾向ながら堅調に推移したが、インドネシアの鉱山向け需要の減少、中国の需要回復の遅れ、ワイヤーソーの需要低迷等により、前年比減収減益。

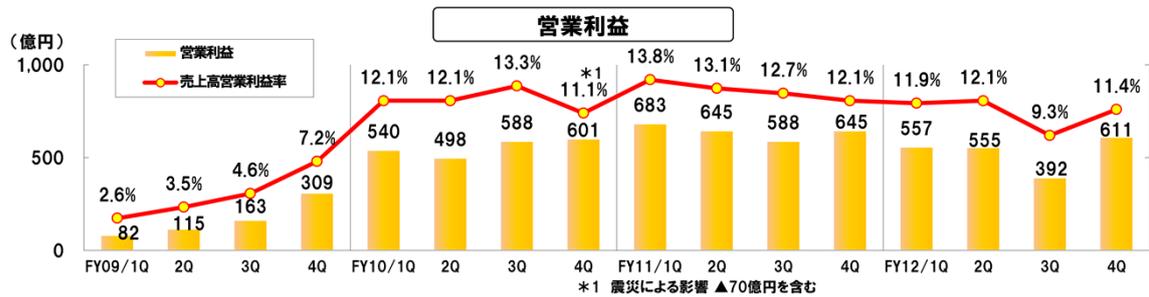
％：利益率（ ）：外部顧客向け売上高

金額単位：億円

| | 2011年度 | | 2012年度見通し (1月公表値) | | 2012年度 | | 前年比 | |
|---------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|--|--|-------------|-----------------|
| | 1ドル=79.0円 1ユーロ=109.6円 1元=12.4円 | | 1ドル=82.0円 1ユーロ=106.0円 1元=13.0円 | | 1ドル = 82.5円 1ユーロ = 106.6円 1元 = 13.2円 | | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 19,817 | | 19,200 | | 18,849 | | ▲967 | ▲4.9% |
| - 建設機械・車両 | (17,393) 17,442 | | (17,160) 17,200 | | (16,770) 16,795 | | (▲622) ▲646 | (▲3.6%) ▲3.7% |
| - 産業機械他 | (2,424) 2,511 | | (2,040) 2,100 | | (2,079) 2,162 | | (▲344) ▲348 | (▲14.2%) ▲13.9% |
| - 消去 | ▲136 | | ▲100 | | ▲108 | | +27 | - |
| セグメント利益 | 13.1% 2,586 | | 12.1% 2,330 | | 11.4% 2,140 | | ▲446 | ▲17.3% |
| - 建設機械・車両 | 14.1% 2,462 | | 13.5% 2,320 | | 12.4% 2,089 | | ▲373 | ▲15.2% |
| - 産業機械他 | 6.7% 167 | | 1.9% 40 | | 2.9% 62 | | ▲105 | ▲62.9% |
| - 消去または全社 | ▲44 | | ▲30 | | ▲11 | | +32 | - |
| その他の営業収益(▲費用) | ▲23 | | ▲30 | | ▲24 | | 0 | - |
| 営業利益 | 12.9% 2,563 | | 12.0% 2,300 | | 11.2% 2,116 | | ▲447 | ▲17.5% |
| その他の収益(▲費用) | ▲67 | | ▲80 | | ▲69 | | ▲2 | - |
| 税引前当期純利益 | 2,496 | | 2,220 | | 2,046 | | ▲450 | ▲18.0% |
| 純利益 *1 | 1,670 | | 1,380 | | 1,263 | | ▲407 | ▲24.4% |

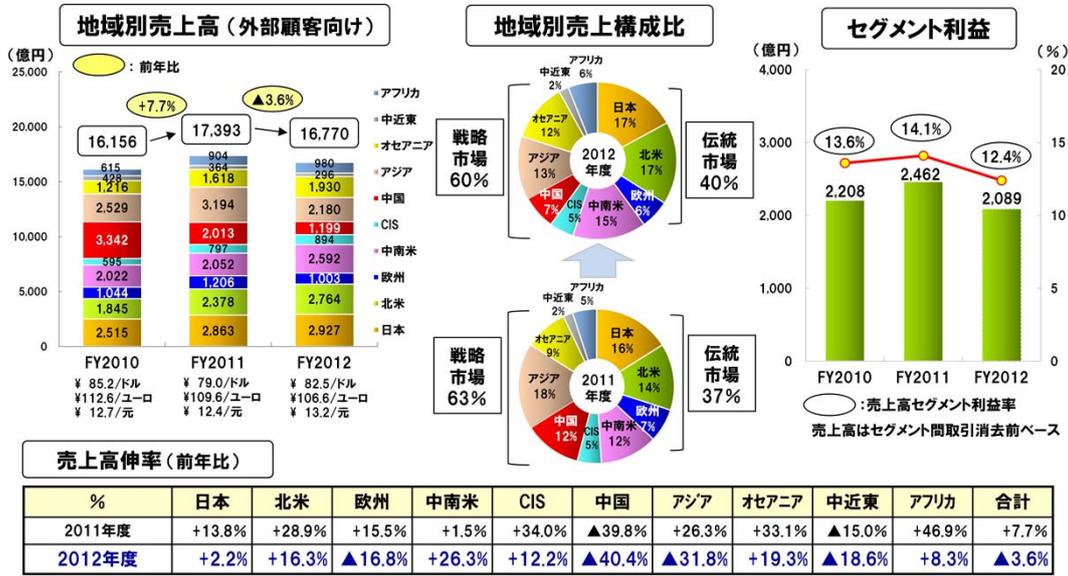
*1 米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

- 北米、日本の建設機械需要は堅調、石炭向け以外の鉱山機械も減速傾向ながら堅調に推移しましたが、インドネシアの鉱山向け需要の減少や、中国の建設機械需要の回復遅れ、ワイヤーソーの需要低迷等により、売上高は前年比▲4.9%減収、営業利益は▲17.5%減益となりました。
- 1月公表値に対しては、売上高で約▲350億円の未達となりました。主な内訳は、中国で約▲170億円、中南米で約▲100億円、オーストラリアで約▲60億円等です。



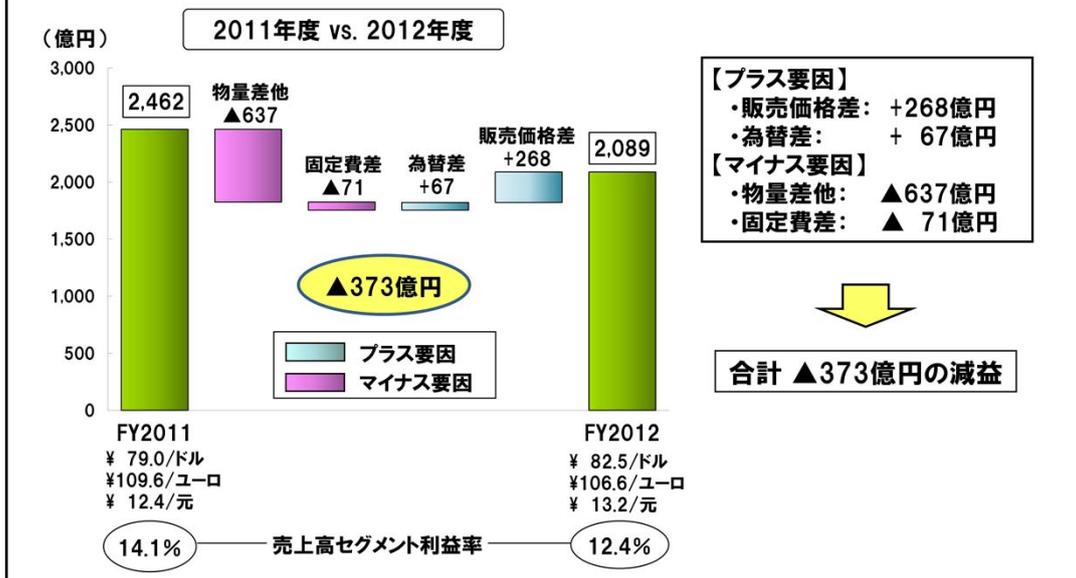
■ 四半期毎の売上高・営業利益は、2012年度第3四半期を底として、第4四半期は回復基調にあります。

・北米、日本の建設機械需要は堅調、石炭向け以外の鉱山機械需要も減速傾向ながら堅調に推移したが、インドネシアおよび中国の需要減等により、売上高は前年比▲3.6%減収の1兆6,770億円。
 ・セグメント利益は前年比▲15.2%減益の2,089億円、セグメント利益率は同▲1.7ポイント減の12.4%。



- 建設機械・車両では、北米、日本が堅調、中南米・オセアニアの鉱山機械需要も減速傾向ながら堅調に推移しましたが、インドネシアおよび中国の需要減などにより、売上高は前年比▲3.6%減収の1兆6,770億円となりました。
- 中南米、オセアニアは年間の売上高が過去最高となりました。
- 伝統市場の構成比が40%に拡大しました。
- セグメント利益は前年比▲15.2%減益の2,089億円、セグメント利益率は同▲1.7ポイント減の12.4%となりました。
- セグメント利益の差異内訳は次ページでご説明します。

・インドネシアならびに中国での需要減少に伴う物量減等の影響を、販売価格の改善ならびに為替差により一部カバーしたが、前年比▲373億円の減益。



- 2012年度の建設機械・車両のセグメント利益は、物量差や固定費等のマイナス要因を販売価格の改善等で一部カバーし、売上高セグメント利益率は12.4%となりました。

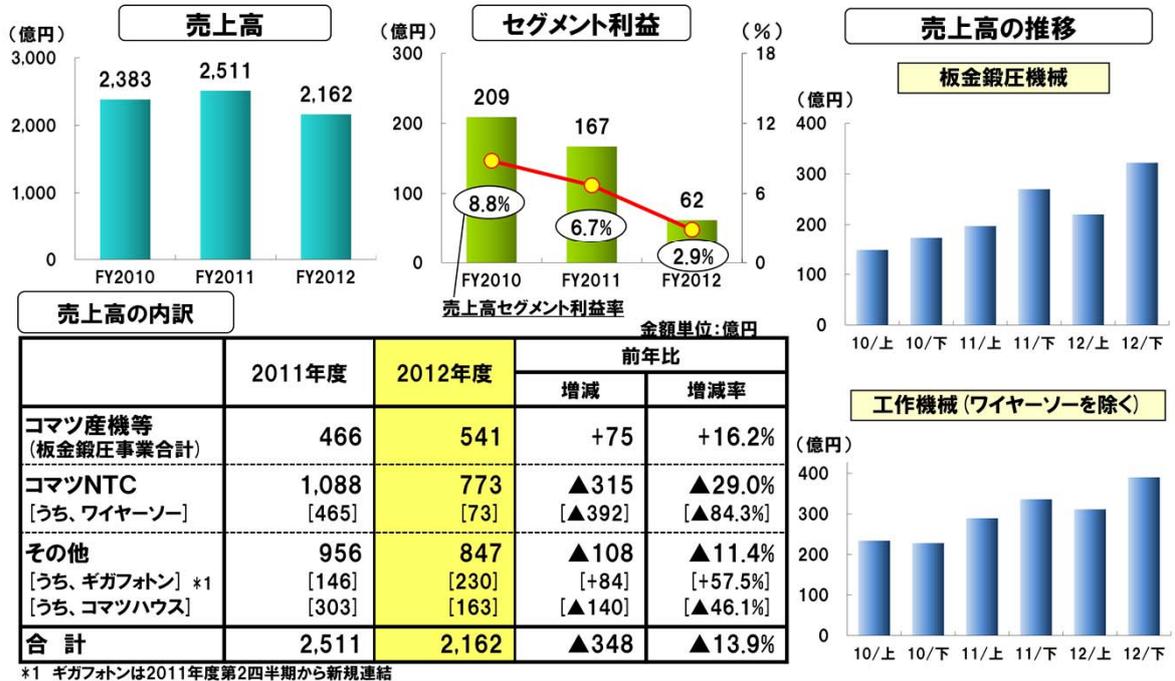
[プラス要因]

- 北米での新排ガス規制対応車拡販等により販売価格の改善が進み、268億円プラスになりました。
- 年度末に為替が円安に振れたことにより、為替差が67億円プラスに働きました。海外現地法人に出荷した商品が現地のお客様に販売されて利益が実現するまでのタイムラグの影響により、為替差は単純に計算した数値より80億円ほど小さくなっています。

[マイナス要因]

- 「物量差他」▲637億円のうち、販売量の減少によるものは約▲400億円です。
- 開発費の増加により固定費が増加していますが、当初の計画より抑制しています。

・大型プレス等の板金鍛圧機械や、工作機械の販売は堅調であったが、ワイヤーソーの需要低迷、仮設住宅用プレハブハウス需要の一巡等により、前年比減収減益。



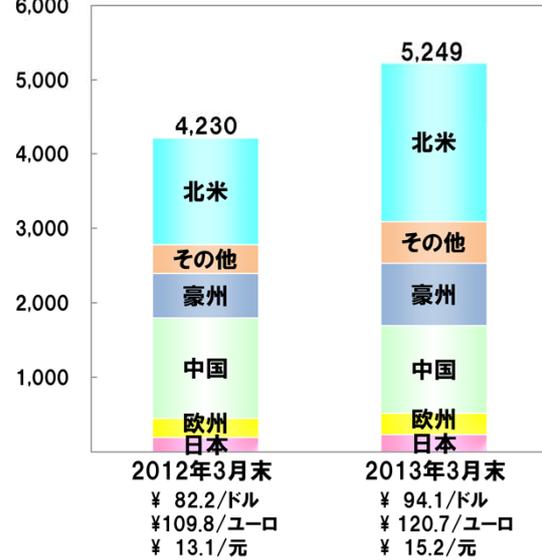
■ 産業機械他では、大型プレス等の板金鍛圧機械や工作機械は堅調でしたが、ワイヤーソーの需要低迷や、仮設住宅用プレハブハウス需要の一巡等により、売上高は前年比▲348億円減収の2,162億円、セグメント利益は▲105億円減益の62億円となりました。

■ 板金鍛圧機械や、ワイヤーソーを除く工作機械の受注・売上は堅調です。

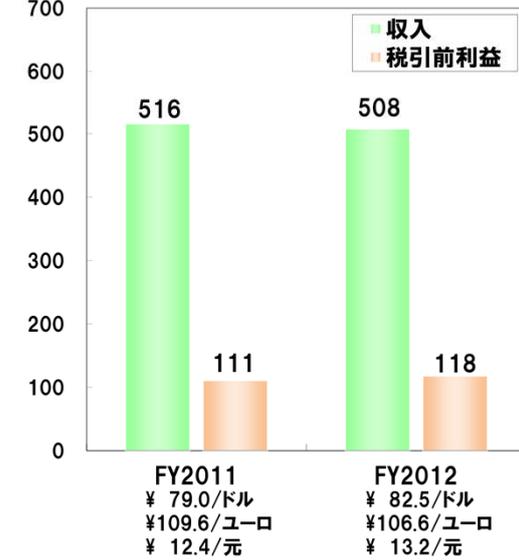
- ・資産は円安の影響に加え、北米、豪州で新規取扱が増えたこと等により2012年3月末比で増加。
- ・収入、税引前利益はほぼ前年並みの水準。

リテールファイナンス連結子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



- リテールファイナンスは大幅な円安の影響に加え、好調な北米やオーストラリアで新規取扱が増えたこと等により、前年度末に比べ資産増となりました。資産増約1千億円のうち、為替の影響は約650億円です。
- 収入や税引前利益は、ほぼ前年並みの水準となりました。

- ・総資産は、為替レートが円安となったこと等により前年度末比で+1,973億円増加。
- ・株主資本比率は同+3.9ポイント増の47.4%。ネットD/エレシオは0.49と、前年度末に比べ改善。

| ネットD/エレシオ | 金額単位:億円 | 2012年3月末 1ドル = 82.2円 1ユーロ = 109.8円 1元 = 13.1円 | 2013年3月末 1ドル = 94.1円 1ユーロ = 120.7円 1元 = 15.2円 | 増減 |
|--|---------|--|--|----------------|
| 現金・預金(含む定期預金) [a] | | 839 | 938 | +98 |
| 受取手形・売掛金(含む長期売上債権) <除くリテールファイナンス会社> | | 7,440 <3,975> | 8,427 <4,143> | +986 <+167> |
| 棚卸資産 | | 6,123 | 6,336 | +212 |
| 有形固定資産 | | 5,296 | 5,852 | +555 |
| その他資産 | | 3,504 | 3,624 | +119 |
| 資産合計 | | 23,205 | 25,178 | +1,973 |
| 支払手形・買掛金 | | 2,734 | 2,262 | ▲471 |
| 借入金・社債 [b] <除くリテールファイナンス会社> | | 6,478 <3,369> | 6,797 <2,981> | +319 <▲388> |
| その他の負債 | | 3,418 | 3,591 | +173 |
| 負債合計 | | 12,630 | 12,651 | +20 |
| (株主資本比率) | (43.5%) | | (47.4%) | (+3.9ポイント) |
| 株主資本 | | 10,096 | 11,931 | +1,834 |
| 非支配持分 | | 477 | 595 | +117 |
| 負債及び純資産合計 | | 23,205 | 25,178 | +1,973 |
| ネットベースの借入金・社債 [b-a] | 0.56 | 5,638 | 0.49 5,859 | +221 |
| ネットD/エレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合) | 0.28 | | 0.20 | |

- 総資産は前年度末比で+1,973億円増加しましたが、為替の影響を除けば、ほぼ前年度並みでした。
- 棚卸資産は、見かけ上増えていますが、為替の影響を除けば減少しています。
- 借入金・社債も見かけ上増えていますが、為替の影響を除けば減少しています。
- 株主資本比率は同+3.9ポイント増の47.4%となりました。
- ネット・デット・エクイティ・レシオは0.49と、前年度末に比べ改善しました。